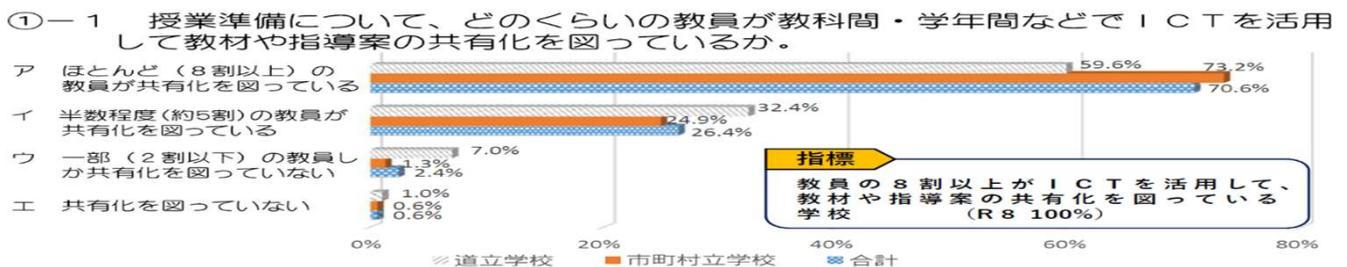


クラウドへ情報を集約し教職員全員で活用する ～授業実践の共有と蓄積のすすめ～

道内の多くの学校では、既に職員会議資料などをクラウド上で処理し、ペーパーレス化が図られ、印刷の手間と予算の省力化が進んでいます。また、会議後もロケーションフリーで手軽に資料を参照できるなど効率化が図られています。今後は、授業準備においても、作成した教材や指導案をクラウド上で共有することで、チームとしての働きやすさが増し、学校力の向上が期待できます。



R6学校における働き方改革北海道アクション・プランに係る取組状況調査結果報告より

1 教材や指導案をクラウド上に共有するメリット

- (1) **アクセシビリティ向上**
 - どこからでもクラウド上に保存された教材や指導案にアクセスできるため、効率的な準備が可能になります。
- (2) **バックアップの確保**
 - 教材がクラウドに保存されることで、端末の故障時などでもデータを失う心配がありません。
- (3) **時間と労力の節約**
 - 教材を繰り返し作成する必要がなくなり、過去の教材を利用・編集して効率的に準備が進められます。
- (4) **ICTを活用した教育推進**
 - クラウド上の教材を活用することで、デジタル教材を活用した協働学習やオンライン学習の取り組みを促進できます。
- (5) **協働的な教材や指導案開発**
 - 他の教員と教材を簡単に共有でき、共同作業や意見交換を通じて教材の質を高められます。
- (6) **校内研修や学校運営の状況の確認**
 - 研修主事やミドルリーダーが、クラウド上の教材や指導案の状況から、教育目標の到達状況などを把握することができます。

2 教材や指導案をクラウド上に共有するための条件整備

- (1) **安全性の確保**
 - クラウドの整備にあたって、教育委員会が責任を持って、セキュリティ対策やサポート体制、ガイドライン等の準備を行う必要があります。
- (2) **使用ルールの明確化が必要**
 - 学校として適切な保存・共有ルールを設定しないと教材が散在したり、無関係な資料が混在して混乱を招く可能性があります。
- (3) **操作スキルの獲得**
 - 教職員が新たな技術や操作方法を習得する必要があります。クラウド活用について、ICT支援員の配置や研修の実施など教育委員会からのサポートが必要になります。